

福祉心理学科

3年次編入生用

科目名	社会調査の基礎	開講時期	4年 前期
担当教員	岩本 勇	単位数	2
テーマ	社会調査法の基礎知識		
授業の概要と目的	<p>社会調査とは、社会あるいは社会事象に関して、客観的な知識を得るための技法である。本講義では福祉領域、いわゆる社会福祉調査法について教授する。わが国では社会福祉領域の発展に伴い、その重要性がますます高まっている。社会福祉の実践者となる者は、社会の諸問題を発見するための調査技法を身に付け、社会調査法を用いた様々な情報を正しく理解する技術が必要である。</p> <p>本講義は、社会調査の意義と目的及び方法を概説し、統計法の概要、社会調査における倫理や個人情報保護、量的、質的調査方法の理解を目的とする。</p>		
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 2 社会福祉と社会調査 3 社会調査の概要 4 量的調査の方法① 5 量的調査の方法② 6 量的調査の方法③ 7 量的調査の方法④ 8 質的調査の方法① 	<ul style="list-style-type: none"> 9 質的調査の方法② 10 質的調査の方法③ 11 質的調査の方法④ 12 社会調査における倫理と個人情報保護 13 社会調査の実施にあたっての IT の活用方法 14 社会科学としての社会福祉 15 授業の総括 	
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会福祉士養成講座編集委員会 編集 『社会調査の基礎』 中央法規 		
参考文献	講義中適宜紹介する		
成績評価の基準・方法	<p>授業での講義内容の理解、その知識を学生自らの経験の中で消化する応用力、そしてその考えを小テストで表現する文章表現力によって、成績評価を行なう。小テストの採点結果は次の授業で学生の皆さんに報告する。前期小テストの評価基準は、文字量 20%、アウトライン 20%、テクニカルターム 20%、主旨 20%、丁寧さ 20%。質問欄の内容によって適宜加点。最終評価は、小テスト 40%、質問加点 20%、期末試験 40%とする。</p>		
質問・相談の受付方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小テスト票の質問欄に記載があれば、次回の講義内で回答 ・ 月曜を除く時間帯に研究室（研究室棟 203 号）にて、不在の場合は携帯電話、又は次のアドレスでも受け付ける（iwamoto@suw.ac.jp） 		
履修要件	特に設けない		
特別学生の履修の可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】		
その他	<p>学生の皆さんが楽しく、そして解りやすい授業を展開するよう努めます。そのために学生の皆さんとの情報交換を大切にしていきます。</p>		

科目名	相談援助の理論と方法C	開講時期	4年 前期
担当教員	鈴木武幸	単位数	2
テーマ	実習・演習の科目に連動した「実践能力」を身につけるための理論と方法を学ぶ		
授業の概要と目的	相談援助の対象者であるクライアントの相談に応じ、ソーシャルワークの業務についての内容を理論的に習得することを目的とする。		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1、 相談援助における対象の理解、概念と定義 2、 相談援助の対象をどうとらえるか 3、 ケースマネジメント（ケアマネジメント）の基本・概念 4、 ケースマネジメントにおけるアセスメントの目的・意義 5、 ケアプランを用いたケースマネジメント（実践課程と方法） 6、 グループを活用した相談援助Ⅰ、グループワークの特徴 7、 グループを活用した相談援助Ⅱ、原則と過程 8、 コーディネーションとネットワーキングⅠ、社会資源 9、 コーディネーションとネットワーキングⅡ、方法と留意点 10、 相談援助における社会資源の活用・調整・開発Ⅰ 11、 相談援助における社会資源の活用・調整・開発Ⅱ 12、 さまざまな実践モデルとアプローチⅠの1、（実践モデルとその意味） 13、 さまざまな実践モデルとアプローチⅠの2、（三つのモデル） 14、 さまざまな実践モデルとアプローチⅠの3、（ジェネラリスト・ソーシャルワーク） 15、 授業の総括 		
テキスト	「社会福祉学習双書」編集委員会編 社会福祉援助技術論Ⅱ 相談援助の理論と方法（3年生で使用した教科書をそのまま使用する）		
参考文献	「社会保障の手引き」中央法規		
成績評価の基準・方法	<ol style="list-style-type: none"> ① 適宜授業内で行う質疑に答えること（30%） ② 学習態度・意欲及び章別行う小テスト・レポート等（30%） ③ 授業の総括等を提出すること（40%） 12, 13, 14 講については、資料等を提供する。		
質問・相談の受付方法	授業内で適宜、質問相談に応ずる。		
履修要件			
特別学生の履修の可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】		
その他	社会福祉六法等使用する場合がある。		

科目名	相談援助の理論と方法D	開講時期	4年 後期
担当教員	鈴木武幸	単位数	2
テーマ	実習・演習の科目に連動した「実践能力」を身につけるための理論と方法を学ぶ		
授業の概要と目的	引き続き、相談援助の対象者であるクライアントの相談に応じ、ソーシャルワークの業務についての内容を理論的に習得することを目的とする。		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1、 さまざまな実践モデルとアプローチⅡの1、(心理社会的アプローチ～) 2、 さまざまな実践モデルとアプローチⅡの2、(問題解決アプローチ～) 3、 さまざまな実践モデルとアプローチⅡの3、(危機介入アプローチ～) 4、 さまざまな実践モデルとアプローチⅢの1、(エンパワメントアプローチ～) 5、 さまざまな実践モデルとアプローチⅢの2、(その他の実践アプローチ) 6、 スーパービジョンとコンサルテーションⅠ、Sの意義と目的 7、 スーパービジョンとコンサルテーションⅡ、Cの意義と目的 8、 相談援助における記録、意義と目的、記録の種類と方法 9、 相談援助における個人情報保護 10、 相談援助における情報通信技術(ICT)の活用 11、 事例分析の意義と方法、事例 12、 事例分析の方法、記録 13、 相談援助活動の実際Ⅰ(事例) 14、 相談援助活動の実際Ⅱ(事例) 15、 授業の総括 		
テキスト	「社会福祉学習双書」編集委員会編 社会福祉援助技術論Ⅱ 相談援助の理論と方法 (3年生で使用した教科書をそのまま使用する)		
参考文献	「社会保障の手引き」中央法規		
成績評価の基準・方法	<ol style="list-style-type: none"> ① 適宜授業内で行う質疑に答えること (30%) ② 学習態度・意欲及び章別行う小テスト・レポート等 (30%) ③ 授業の総括等を提出すること (40%) 		
質問・相談の受付方法	授業内で適宜、質問相談に応ずる。		
履修要件	相談援助の理論と方法Cを前期で履修すること		
特別学生の履修の可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】		
その他	社会福祉六法等を使用する場合がある。		

科目名	福祉行財政と福祉計画	開講時期	4年 後期
担当教員	清水将一	単位数	2
テーマ	福祉の行財政及び福祉計画の基礎を理解する		
授業の概要と目的	<p>福祉行財政の実施体制、財源、組織・団体等について講義するとともに、福祉計画の意義、策定過程における課題等について講義する。</p> <p>ほぼ毎回授業前に国試過去問から小テストを実施し国試対策にも対応する。</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 国及び市町村の役割 2. 国と地方との関係 3. 福祉の財源 4. 国と地方の財源および民間財源 5. 福祉行政の組織 6. 行政機関の種類と役割 7. 福祉行政における専門職の役割 8. 福祉の法制度（社会福祉法を中心に） 9. 福祉計画の主体・種類 10. 福祉計画の策定方法と留意点 11. 福祉計画策定過程における技法 12. 福祉計画策定におけるニーズ把握 13. 福祉計画策定における問題分析・合意形成 14. 福祉計画策定における住民参加 15. 福祉計画の実際と評価 		
テキスト	<p>新・社会福祉士養成講座第10巻 福祉行財政と福祉計画 (中央法規出版)</p>		
参考文献	福祉六法		
成績評価の基準・方法	<p>小テスト（不定期） 40点 本テスト（学期末） 60点 無断欠席をしないこと。（3回以上の受講生は減点の対象とする。）</p>		
質問・相談の受付方法	<p>オフィスアワー（後日掲示）を利用してください。 オフィスアワー以外でも先約がなければ研究室（310）で受け付ける。</p>		
履修要件			
特別学生の履修の可否	<p>科目等履修生【可】 聴講生【可】</p>		
その他	<p>社会福祉実践は権利侵害の予防を含めた回復の仕事である。社会福祉を学ぶ学生が他の学生の学ぶ権利を私語等で侵害することがあってはならない。このことに同意した学生のみ受講を認める。</p> <p>なお授業計画は基本的にテキストに沿っているので、該当する箇所を事前に読んでおき小テストに備えること。</p>		

科目名	福祉サービスの組織と経営	開講時期	4年 前期
担当教員	奈良修三	単位数	2
テーマ	福祉サービスの組織の運営経営の基礎を学び、組織の主体者となる資質を養う		
授業の概要と目的	<p><目的> 社会福祉分野では多様な経営主体が創出されており、それぞれの組織についての学びを通して、利用者の視点、職員の視点をポイントに運営、経営のあり方を理解する。</p> <p><概要> 実際の施設経営・運営の内容を例示しながら、講義を進める。</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 福祉サービス組織の歴史、役割について学ぶ 2. 福祉サービスの組織の体系と制度について学ぶ 3. 社会福祉法人・NPO 法人他多様な組織について学ぶ 4. 福祉サービス組織の経営に係る基礎理論について学ぶ 5. 福祉サービス組織の管理運営について学ぶ 6. 組織における「個」と「集団」との構造や関係性について学ぶ 7. リーダーシップの基礎理論について学ぶ 8. 組織運営と経営の実際を学ぶ 9. 人事管理・人材確保の実態と養成プログラムについて学ぶ 10. 社会福祉法人やNPO 法人等の非営利組織、株式会社等の営利法人の財源問題について学ぶ 11. 福祉サービス組織の収支バランスの実際を学ぶ 12. 福祉サービス組織のコンプライアンス、ガバナンスについて学ぶ 13. 適切なサービスマネジメント・危機管理の実際を学ぶ（苦情や事故対応など） 14. 福祉サービス組織の建物・設備環境を学ぶ 15. 福祉サービス組織の経営と運営の戦略を考える 		
テキスト	・「福祉サービスの組織と経営」（弘文堂）		
参考文献	・講義中適宜紹介する		
成績評価の基準・方法	・毎回、講義終了後の感想文（10 分程度で書ける程度）と後半期の小テストを実施する。（配点30：70）。		
質問・相談の受付方法	・講義終了後、教室あるいは講師控室（研究室棟1階）で受け付ける。		
履修要件	・特に設けない		
特別学生の履修の可否	科目等履修生【可】 聴 講 生 【可】		
その他	・常にサービスを利用する立場、サービスを提供する現場の職員の立場になって組織の経営や運営を考えることのできる内容にしたいと思います。率直な意見を歓迎します。		

科目名	保健医療サービス	開講時期	4年 前期
担当教員	石光和雅	単位数	2
テーマ	保健医療専門職としての最低限の基礎的知識を学ぶ		
授業の概要と目的	<p>「社会福祉士法及び介護福祉士法」の改正に伴い、社会福祉士と精神保健福祉士の共通科目の一つとして設けられた本科目は、旧共通科目であった「医学一般」が「保健医療サービス」と「人体の構造と機能及び疾病」に分かれたものです。使用するテキストは、社会福祉士国家試験のシラバスに準じた内容となっています。保健医療専門職として必要な最低限の基礎的知識を学ぶことを目的とします。</p>		
授業計画	<p>第1回 利用者患者・医療機関という場の理解をする 第2回 各医療専門職の役割 第3回 医療ソーシャルワーカー業務指針 第4回 保健医療サービスの概要 第5回 医療保険制度の概要 第6回 診療報酬制度 第7回 医療保険制度と介護保険制度の関係 第8回 保健医療対策 第9回 連携の意味 第10回 保健医療サービスにおける連携の実際 第11回 地域の社会資源との連携 第12回 保健医療サービスにおける今後の課題と展望 第13回 地域・在宅医療に向けて 第14回 (事例学習) 医療ソーシャルワーカーの働き 第15回 授業の総括</p>		
テキスト	現代の社会福祉士養成シリーズ『保健医療サービス』久美出版、2010年		
参考文献	授業中に適宜紹介します。		
成績評価の基準・方法	毎回の振り返りシートと小テスト及び学期末の筆記試験で評価します。 (配点 30 : 70)		
質問・相談の受付方法	振り返りシートに積極的に記入して下さい。 オフィスアワー(後日掲示)を積極的に利用して下さい。 kanma@suw.ac.jp へどうぞ		
履修要件	特に設けません。		
特別学生の履修の可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】		
その他	積極的な質問を歓迎します。		

科目名	権利擁護と成年後見制度	開講時期	4年 後期
担当教員	五味 保教	単位数	2
テーマ	権利擁護の認識に基づいた社会福祉実践		
授業の概要と目的	社会福祉士としての援助実践は、利用者の権利擁護の視点を忘れてはならない。具体的な権利擁護のあり方について、講義形式を主体として学習する。		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会福祉士と権利擁護 2. 相談援助活動に求められる法知識①(憲法) 3. 相談援助活動に求められる法知識②(行政法) 4. 相談援助活動に求められる法知識③(家族法) 5. 相談援助活動に求められる法知識④(相続法) 6. 成年後見制度の概要① 7. 成年後見制度の概要② 8. 成年後見の実際① 9. 成年後見の実際② 10. 成年後見制度利用支援事業の概要 11. 日常生活自立支援事業の概要 12. 権利擁護支援の局面と法制度の活用 13. 権利擁護に関わる組織・団体とその役割 14. 権利擁護活動の実際 15. 権利擁護の課題と展望 		
テキスト	新・社会福祉士養成講座 19 「権利擁護と成年後見制度」 社会福祉士養成講座編集委員会 編集 中央法規出版株式会社		
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・授業において適宜紹介する。 		
成績評価の基準・方法	<ul style="list-style-type: none"> ・学期末の筆記試験で評価する。(80%) ・授業での積極性。(20%) 		
質問・相談の受付方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業終了後、教室で受け付ける。 		
履修要件	<ul style="list-style-type: none"> ・特に設けない。 		
特別学生の履修の可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】		
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲的な授業態度で臨んでください。 ・質問等は歓迎します。 		

科目名	更生保護と就労支援	開講時期	4年 後期
担当教員	武藤 裕子(1～7回)、太田 晴康(8～15回)	単位数	2
テーマ	更生保護および就労支援制度の基本を理解する		
授業の概要 と目的	今日の福祉の基本的な考え方である、自立支援に対する理解を深める。 更生保護の意義と目的、就労支援の方法を学びより高い専門性を身につける。		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 更生保護制度の概要 (P2～36) 3. 更生保護制度の概要 (P37～56) 4. 更生保護制度の担い手 (P57～71) 5. 更生保護制度に関わる機関・団体 (P73～86) 6. 更生保護制度に関わる機関・団体 (P87～127) 7. 更生保護まとめ 8. 働くことの意味と社会福祉士の役割 (P2～4) 9. 現代の労働を取り巻く状況 (P6～23) 10. 障害者と就労支援 (P26～71) 11. 低所得者と就労支援 (P74～96) 12. 連携、ネットワーキング (P98～122) 13. 就労支援のあり方 (P124～126+配付資料「自立支援協議会と就労支援」) 14. 社会福祉士国家試験について 15. まとめ 		
テキスト	新・社会福祉士養成講座 20 更生保護制度 中央法規出版 新・社会福祉士養成講座 18 就労支援サービス 中央法規出版		
参考文献	適宜、紹介する。		
成績評価の 基準・方法	出席および授業態度 50% 小テスト・レポート 50%		
質問・相談 の受付方法	オフィスアワー及び随時		
履修要件	社会福祉士の実習を前提とし、国家試験の受験を希望する学生を対象とします。		
特別学生の 履修の可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】		
その他	障害等の理由により適切な配慮が必要な学生は事前に申し出てください。		

科目名	相談援助演習 E	開講時期	4年 前期
担当教員	武藤 裕子	単位数	2
テーマ	ソーシャルワークの全体像を捉え、即戦力となる技術を身に付ける。		
授業の概要と目的	現代社会において問題となっている社会的排除や社会的孤立に対する認識を深め、支援の方法を考える。		
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> 1、オリエンテーション 2、社会的排除・孤立とは 3、ミクロからマクロ・レベル実践に焦点を当てた相談援助演習 4、就労支援に関する相談援助演習（障がい者、母子家庭） 5、病院からの退院・学校でのいじめに関する相談援助演習 6、虐待（児童・高齢者）への相談援助演習 7、ドメスティック・バイオレンスに関する相談援助演習 8、低所得者・ホームレスへの相談援助演習 9、高齢者（認知症・要介護）とその家族への相談援助演習 10、障がい者（身体障害・知的障害）とその家族への相談援助演習 11、障がい者（発達障害・精神障害）とその家族への相談援助演習 12、児童（児童養護施設入所）への相談援助演習 13、アルコール依存症者とその家族への相談援助演習 14、非行少年・在住外国人とその家族への相談援助演習 15、総括 		
テキスト	プリントを配布する。		
参考文献	授業の中で紹介する。		
成績評価の基準・方法	レポート、授業への参加度で評価する。（配点 50：50）		
質問・相談の受付方法	オフィスアワー		
履修要件	相談援助演習 A,B,C,D を履修済みのこと		
特別学生の履修の可否	科目等履修生【不可】 聴講生【不可】		
その他			

科目名	相談援助実習指導	開講時期	4年 前期
担当教員	武藤 裕子	単位数	2
テーマ	実習を振り返り、報告会で発表する。		
授業の概要と目的	春休みに行った実習を振り返り、報告書を作成。また、報告会に向けたパワーポイント作成、プレゼンテーションの方法を身に付ける。		
授業計画	1、オリエンテーション 2～4、実習振り返り（個人発表） 5～7、報告書作成 8～10、パワーポイント作成 11～13、発表練習 14、報告会発表 15、総括		
テキスト	なし		
参考文献	授業の中で紹介する。		
成績評価の基準・方法	報告書及び発表で評価する。(配点 50 : 50)		
質問・相談の受付方法	オフィスアワー		
履修要件	相談援助実習を履修済みのこと		
特別学生の履修の可否	科目等履修生【不可】 聴講生【不可】		
その他			